

5 メス刃の特徴とその使い方

眼形成手術ではNo.15とNo.11 (図7) のメスを使います。No.15は、「引く」とよく切れるようにできており、通常の皮膚切開に用います。No.11は主に「押して」切る場合に使い、皮弁の先端等、角度をつけて切開する場合に特に有用です。

メスで切開するとき、皮膚をピンと伸ばして緊張させておくことが重要です。右利きの術者の場合、左手の2本の指、右手の薬指を使って(合計3点で)、皮膚を緊張させます。皮膚が緊張している状態では、メスを皮膚に当てて引く(なぞる)だけで、皮膚は容易に切れます。



図7

6 ellman RFナイフを使いこなせ！

眼形成手術ではしばしばellman RFナイフが使われます。このRFナイフの特徴や使い方を知っていれば、出血の少ない、質の高い手術が可能になります。

ellman RFナイフは通常の電気メスに比べて周波数が大きく、周囲への熱発生が少ないため、最小の組織損傷で切開が可能です。

皮膚は「切開モード」で切開します。皮膚は皮脂のために絶縁体となっているため、切開前によく絞ったガーゼで皮膚を湿らせておき、良好な通電が可能な状態にしておきます。針状の電極を用いますが、メスで切開するときと同様、皮膚をピンと伸ばして緊張させておくことが重要です。この針状電極の先端で皮膚を、す〜と、なぞるような感じで切開します(図8)。考え方としては、真皮までの切開にとどめ、その下にある真皮下血管網からの出血を極力おさえる、という感じです。ピンポイントでの皮膚への接触がポイントです。

真皮下血管網を含む皮下組織は「混合モード」で切開します。ここでは、組織を焼きながら切っていくという感覚、すなわち、針状電極をゆっくりと進めてゆきます。太い血管からの出血はみられますが、細い血管からの出血はこれでほぼ制御できます。

出血点を止血したい場合には、「止血・凝固モード」を使用します。はじめに出血点に電極を当ててからフットスイッチを踏む(またはハンドピースのスイッチを押す)と、接触している組織での抵抗が上昇し、熱発生が大きくなるため、止血ができます。出力が強すぎると組織が切れて止血できないので注意が必要です。このような時には、ellman RFナイフ専用のバイポーラ止血鑷子で止血するのも有用です。

以上、皮膚や皮下組織の切開について述べましたが、ellman RFナイフは涙嚢鼻腔吻合術の粘膜切開においても威力を発揮します。鼻外法では、皮膚、皮下切開の他、鼻腔粘膜、涙嚢粘膜の切開時に使用可能です。鼻内法では、長い柄で先が曲がった鼻腔粘膜切開専用のアタッチメント(図9)が発売されています。また、ellman吸引式モノポーラ(図10)も有用な器具で、先端のアタッチメントが吸引嘴管+モノポーラとなっており、これを専用のハンドピースに接続して使用します。



図8